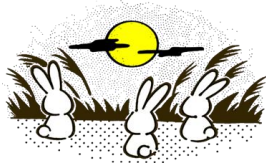


富陽っ子のよりよい成長をめざして

～前期学校評価結果の分析と今後の方策～



野々市市立富陽小校
校長 古村 充

残暑厳しい折、保護者のみなさまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃よりPTA 活動にご協力いただいておりますことに深く感謝いたします。

さて、1 学期末にお寄せいただいた学校評価アンケートの結果とその分析、今後の方策についてお知らせいたします。

【肯定的評価の見方】 A評価「できている（よくそう思う）」 B評価「どちらかといえばできている（だいたいそう思う）」

	評価項目	目標値	児 童	保護者	昨年度 後期比
			A+B 評価	(A 評価)	
1	自分にも友達にも良いところがあると思いますか。	95%	97.4% (81.9%)	—	↑ +7.5
2	学校は楽しいですか。	95%	94.0% (68.7%)	—	→ -1.0
3	学校だよりやホームページなどを通して、学校の様子が分かりますか。	90%	—	85.4% (28.7%)	↘ -3.5
4	クロームブックを使って書いたり調べたりまとめたりすることができますか。	95%	99.1% (70.5%)	—	↑ +6.6
5	低学年：考えのわけを表現していますか。	90%	91.5% (62.1%)	—	↑ +6.8
	中学年：考えのわけか根拠を表現していますか。	90%	88.5% (49.6%)	—	↘ -2.4
	高学年：考えのわけと根拠を表現していますか。	90%	82.8% (39.2%)	—	→ -1.6
6	相手を見て自分からあいさつができますか。	90%	93.3% (56.2%)	—	↑ +4.0
7	子どもや地域住民、見守り隊の方に対して、子どもたちの手本となるようなあいさつができていますか。	90%	—	90.2% (34.8%)	→ +1.3
8	学校行事や児童会活動、学級活動では、自分の役割を果たし、「自分は頑張ることができた」と思いましたか。	95%	94.8% (67.2%)	—	→ -0.6
9	学校行事や児童会活動、学級活動では、友達の良さや頑張りをを見つけることができましたか。	95%	95.0% (64.7%)	—	→ +0.1
10	体育の授業で、積極的に体を動かすことができましたか。	95%	95.2% (75.9%)	—	→ +0.2

【昨年度後期比較】

↑ 5%以上プラス・100%維持

↗ 2%以上～5%未満上回る

→ 差が2%未満

↘ 2%以上～5%未満マイナス

↓ 5%以上マイナス

【裏面あり】

「学校は楽しいですか」

「自分にも友達にも良いところがあると思いますか」について

今年度、本校では教職員が一丸となって「みんなを幸せにする」「みんなで幸せになる」を重点目標に掲げ、教育活動に取り組んでおります。その中で、児童の「自分にも友達にも良いところがある」の項目は、昨年度後期達成値と目標値を大きく上回る結果となりました。

児童の成長と幸せに働きがいを感じられる、子どもファーストの職員集団をめざし、後期も引き続き児童の思いや困り感に共感しながら、児童一人一人のよさを見つけて伸ばす教育活動に教職員全員で努めて参ります。そして、今後も学校だよりや学校ホームページを通して、学校の取組の様子やお知らせを積極的に発信していきます。その際、素早く確実に保護者の方々に伝わるように、富陽小学校ホームページに「新着情報」の項目を新しく設けて、更新したことをお知らせします。

学習面について

児童の「クロームブックを使って書いたり調べたりまとめたりすることができる」の項目は、昨年度後期より6.6%増加し、目標値を大きく上回る99.1%でした。全国学力学習状況調査質問紙調査結果においても県の平均を大きく上回りました。後期も引き続き、一人一台端末を使う良さを児童が実感できる授業づくりに全学年で努めて参ります。

「考えを表現すること」については、低学年のみが昨年度後期達成値と目標値を上回る結果となりました。後期は、理由や根拠をより意識して表現することができるように、授業のねらいに迫る場面で「どうしてそう考えたのかな?」「どこからそう考えたのかな?」と意図的に問い返すようにします。そして、児童の良かった点を積極的に評価し価値付けながら児童の表現力を高めていきます。

生活面について

児童の「相手を見て自分からあいさつができる」と、保護者の「子どもや地域住民、見守り隊の方に対して、子どもたちの手本となるようなあいさつができる」の項目は、昨年度後期達成値と目標値をどちらも上回る結果となりました。

学校では、「相手を見て、自分から、児童の名前を呼び、相手に届く声」で教師が率先してあいさつすることに粘り強く取り組みます。また、教職員同士が気持ちの良いあいさつや会釈をし合うことも日頃から大切にします。さらに、「自分からあいさつしてくれたね。元気が出たよ。ありがとう。」「目を見てあいさつしてくれてうれしいよ。」と自分が感じたメッセージを伝えながら児童の自主性を伸ばし、「あいさつは自分からするもの」という風土を醸成していきます。

学級活動・児童会活動について

児童の「自分は頑張ることができた」と「友達の良さや頑張りを見つけることができた」の項目は、どちらも昨年度後期とほぼ変わらず高い数値を維持した結果となりました。

学級活動や児童会活動では、結果だけではなく努力の過程を大いに認める言葉かけを継続して行います。また、言われてうれしくなる言葉「あったか言葉」について学級活動で話し合う場を全学級で設定し、自己有用感や自己肯定感につながる言葉を全校に広めていきます。

運動について

児童の「体育の授業で、積極的に体を動かすことができた。」の項目は、目標値を上回る結果となりました。しかし、1学期に行われたスポーツテストにおいて、特に「投能力」に課題が見られました。

児童が課題を克服し積極的に体を動かせるように、石川県教育委員会が企画・運営している「スポチャレいいしかわ」のシャトルボールに全学級に参加し、学級で目標をもたせ意欲を喚起しながら投能力を高めていきます。また、運動量の確保につながる活動や指導のポイント等を全職員で共有しながら、ねらいを意識した活動内容を工夫していきます。

保護者及び地域の皆様、今後とも本校の教育活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。